



わが国におけるサーバ・ワークステーションの 平成24年度出荷実績に関する記者懇談会 開催報告

インダストリ・システム部

ITプラットフォーム事業委員会（旧サーバ事業委員会）では、サーバおよびネットワークストレージ製品に加え、ネットワークやミドルウェアも含めたITプラットフォームに活動の場を広げ、調査研究と関連市場拡大に向けた提言を行うことを目的に、活動を推進しております。

平成24年度のサーバ・ワークステーションの出荷実績を取り纏め、この実績発表とともに最近のサーバ市場動向、ならびにIT活用の現状調査結果内容について公表すべく記者懇談会（5月29日（水））を開催致しました。主な発表テーマを紹介します。

(1) 平成24年度 総出荷について

需要の中心であるIAサーバは、台数では前年を下回りましたが、金額では上回りサーバ全体の需要を牽引しました。UNIXサーバは前年を下回ったものの、ワークステーションならびにメインフレームは台数、金額共に前年を上回りました。

（単位：台・百万円）

総出荷		平成24年度上半期		平成24年度下半期		平成24年度	
		台数	前同比	台数	前同比	台数	前同比
メインフレーム	台数	166	95%	228	106%	394	101%
	金額	38,085	159%	42,221	116%	80,306	133%
UNIXサーバ	台数	4,481	84%	4,109	76%	8,590	80%
	金額	44,405	96%	36,913	67%	81,318	80%
IAサーバ (ブレードサーバ)	台数	158,657	98%	163,021	95%	321,678	97%
		(22,135)	(94%)	(19,390)	(91%)	(41,525)	(93%)
オープンサーバ合計	金額	98,445	102%	100,210	100%	198,655	101%
	台数	163,138	98%	167,130	95%	330,268	96%
独自OSサーバ他	金額	142,850	100%	137,123	89%	279,973	94%
	台数	341	84%	291	65%	632	74%
ワークステーション	金額	2,543	84%	2,169	69%	4,712	77%
	台数	37,576	117%	38,356	93%	75,932	104%
	金額	6,126	108%	6,799	106%	12,925	107%

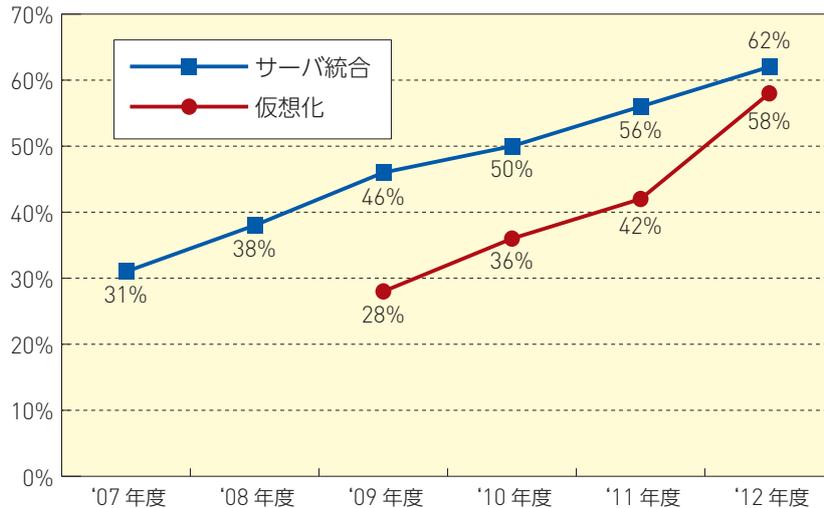
(2) 平成25年度以降見通しについて

国内経済は円安への修正が進み、業績が回復・伸長する企業も出始めており、株価も回復、政府の金融緩和政策の効果も含め、好転も期待できます。IT投資の絞込みと効率化の追求はあるものの、ITシステムのクラウド化や仮想化に満足度が得られており、更に浸透が進むと見込まれます。

(3) IT ユーザトレンド2012ならびにビッグデータ・クラウド取組み動向調査について

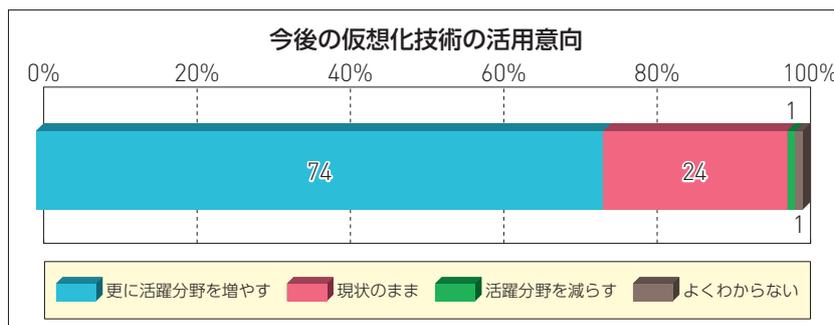
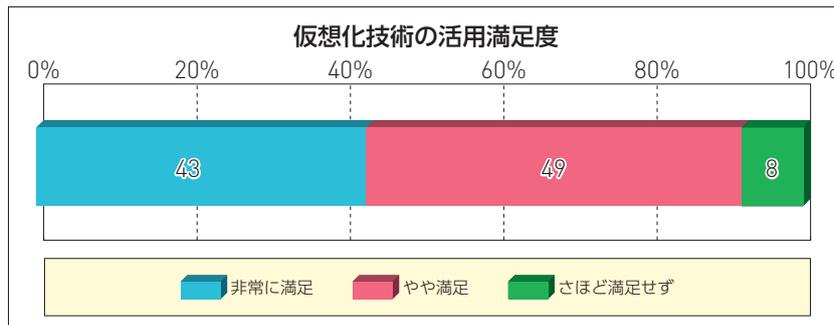
①サーバ統合、仮想化取り組み推移

サーバ統合は年々取り組み企業が増加しております。また、仮想化の利用も年々増加し、2012年度は半数を超えました。



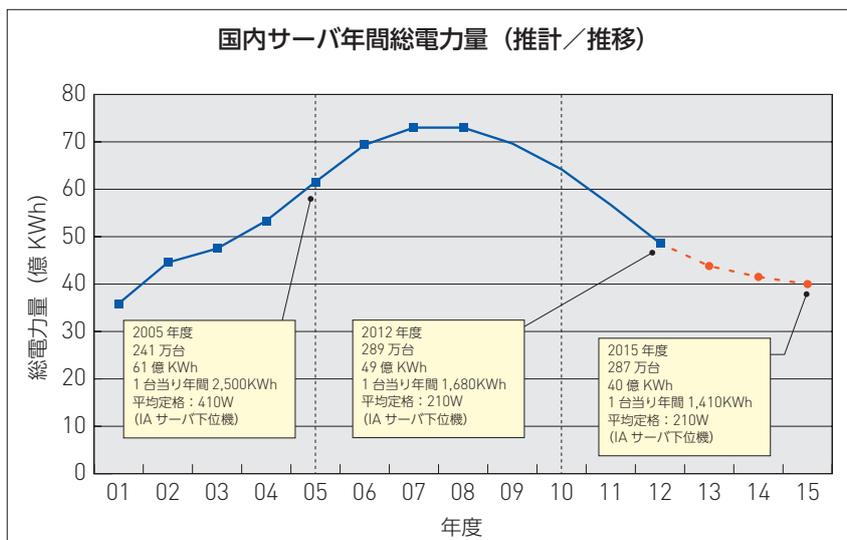
②仮想化技術の活用満足度／今後の活用意向

仮想化技術利用の満足度は非常に高く、今後、更に活用分野を増やしたいとの傾向がうかがえました。



(4) サーバの年間総消費電力量に関する試算について

当事業委員会の傘下に設置したプラットフォームグリーンIT 専門委員会では、サーバの年間総消費電力量の推定値の調査を行っており、今回、2001年度から2012年度までのサーバ出荷台数に基づく実績と、2015年度までの予測値を取り纏めました。2012年度は、サーバの省エネ効果等により総電力量は2009年度から引き続き減少する試算結果となりました。



ITプラットフォーム事業委員会 村野井委員長



記者懇談会会場の様子